

2023年1月19日 全8頁

Indicators Update

2022年12月貿易統計

輸出の伸び悩みなどにより2022年の貿易赤字額は統計開始以来最大に

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2022年12月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+11.5%と増加した一方、季節調整値では前月比▲3.5%と、輸出数量の伸び悩みを背景に減少した。輸入金額は前年比+20.6%と増加したが、円安の緩和などにより伸び率は2カ月連続で急激に鈍化した。これを受け、貿易収支は▲1兆4,485億円と17カ月連続の赤字となった。また2022年の貿易収支は▲19兆9,713億円と2年連続で赤字となり、統計開始以来最大の赤字幅を記録した。
- 12月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲5.0%と2カ月連続で減少した。前月に大きく回復したEU向け自動車輸出で反動減が表れたほか、アジア向けの半導体等製造装置や集積回路（IC）といった半導体関連財の輸出が減少した。地域別に見ると、米国向け（同+0.7%）が増加した一方、EU向け（同▲3.2%）やアジア向け（同▲6.3%）は減少した。
- 先行きの輸出数量は横ばい圏で推移した後、中国経済の正常化に沿って増加基調に転じるとみている。供給制約の緩和や中国の「ウィズコロナ」政策への転換が押し上げ要因となるだろう。ただし、米欧における利上げの影響には引き続き注意が必要だ。

【貿易金額】 輸出数量の減少が輸出金額を下押しし貿易赤字が継続

2022年12月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+11.5%と22カ月連続で増加した（**図表1**）。他方、季節調整値では前月比▲3.5%と2カ月連続で減少した。輸出の実勢を示す輸出数量（大和総研による季節調整値）が同▲5.0%と大幅に減少したことが主因である（**図表2左**）。半導体関連財の需要の弱さや、前月に急回復した自動車輸出の反動減などが押し下げ要因となった。

輸入金額は前年比+20.6%と引き続き大幅に増加したが、伸び率は2カ月連続で急激に鈍化した。品目別では石炭や原油及び粗油、液化天然ガスなどが増加した。季節調整値では前月比▲3.4%と2カ月連続で減少した。税関長公示レートが前月よりも円高に振れたことで、輸入価格（大和総研による季節調整値）が同▲2.3%と7カ月ぶりに低下したことが主因である（**図表2右**）。これを受け、貿易収支は▲1兆4,485億円と17カ月連続の赤字となった。季節調整値では▲1兆7,242億円となり、赤字額は10月をピークに減少傾向にある（**図表3**）。

また2022年10-12月期の貿易収支（季節調整値）は▲5兆8,648億円の赤字となった。輸出数量（大和総研による季節調整値）は前期比▲3.0%、輸入数量は同▲3.1%と、数量ベースではいずれも同程度に減少した。このため、10-12月期の実質GDP成長率における外需寄与度はサービス輸出入に左右されよう。なお、インバウンド消費額の目安となる訪日外客数は、12月に2019年同月の5割超まで回復した（日本政府観光局（JNTO）推計）。その他のサービス輸出入次第ではあるものの、10-12月期の外需寄与度はプラスに転じるとみられる。

2022年の貿易収支は▲19兆9,713億円と2年連続で赤字となり、統計開始以来最大の赤字幅を記録した。輸入金額（前年比+39.2%）が急増し輸出金額（同+18.2%）の伸びを大きく上回った。ロシアのウクライナ侵攻などによる資源高や、円安、新型コロナワクチンの購入が輸入額を押し上げた一方、供給制約や外需の縮小で輸出数量（同▲1.9%）が伸び悩んだことが要因だ。

図表1：貿易統計の概況

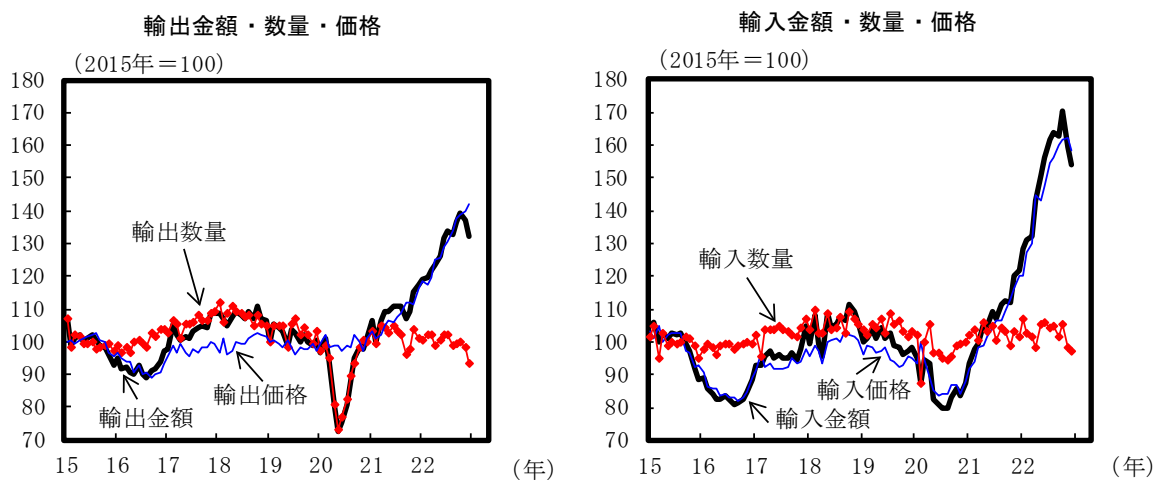
		2022年								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
原系列 前年比 %	輸出金額	12.5	15.8	19.3	19.0	22.0	28.9	25.3	20.0	11.5
	コンセンサス									10.6
	DIRエコノミスト予想									9.4
	輸入金額	28.3	48.8	46.0	47.3	49.8	45.8	53.7	30.3	20.6
	輸出数量	▲4.4	▲3.5	▲1.5	▲1.9	▲1.1	3.8	▲0.3	▲3.6	▲7.1
	価格	17.7	20.0	21.1	21.3	23.4	24.2	25.7	24.4	20.0
	輸入数量	▲9.0	4.7	1.3	2.2	2.7	▲1.7	5.7	▲4.6	▲6.4
価格	40.9	42.2	44.1	44.0	45.8	48.3	45.4	36.6	29.0	
	貿易収支(億円)	▲8,538	▲23,906	▲14,042	▲14,449	▲28,248	▲20,998	▲21,750	▲20,290	▲14,485
季節 調整値 前月比 %	輸出金額	1.4	2.3	4.0	1.9	▲0.8	3.1	1.7	▲1.4	▲3.5
	数量	▲3.0	1.7	1.5	0.3	▲3.2	0.2	0.9	▲2.0	▲5.0
	価格	4.6	0.6	2.5	1.6	2.5	2.9	0.8	0.6	1.6
	輸入金額	8.1	5.5	3.5	3.5	1.4	▲0.7	4.8	▲6.3	▲3.4
	数量	▲2.9	6.9	0.5	▲1.2	0.1	▲3.1	3.8	▲6.6	▲1.2
	価格	11.3	▲1.3	3.0	4.8	1.3	2.4	0.9	0.3	▲2.3
		貿易収支(億円)	▲15,456	▲18,814	▲19,119	▲21,115	▲23,279	▲19,923	▲23,613	▲17,794
	税関長公示レート	122.84	129.17	130.35	136.05	135.08	139.81	145.09	146.43	137.90

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

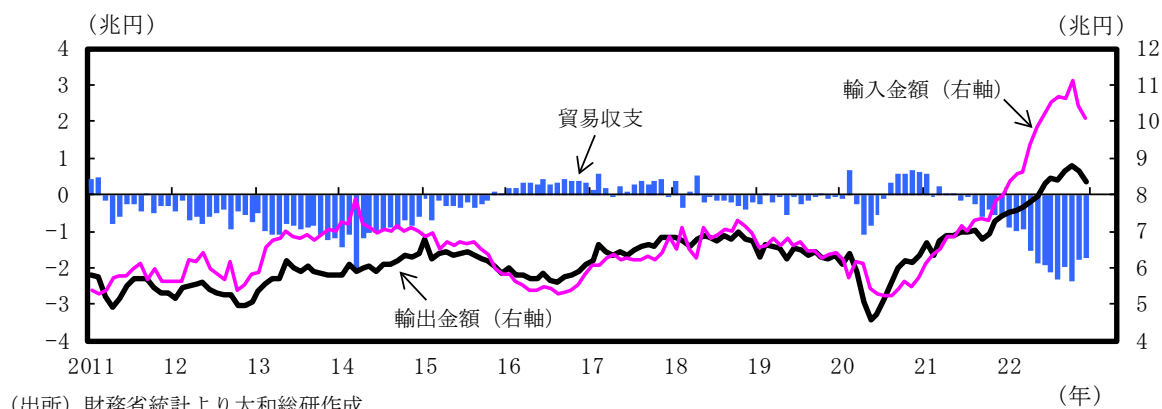
図表 2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表 3：輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【輸出数量】半導体関連財の需要の弱さなどを背景に輸出数量は大幅減

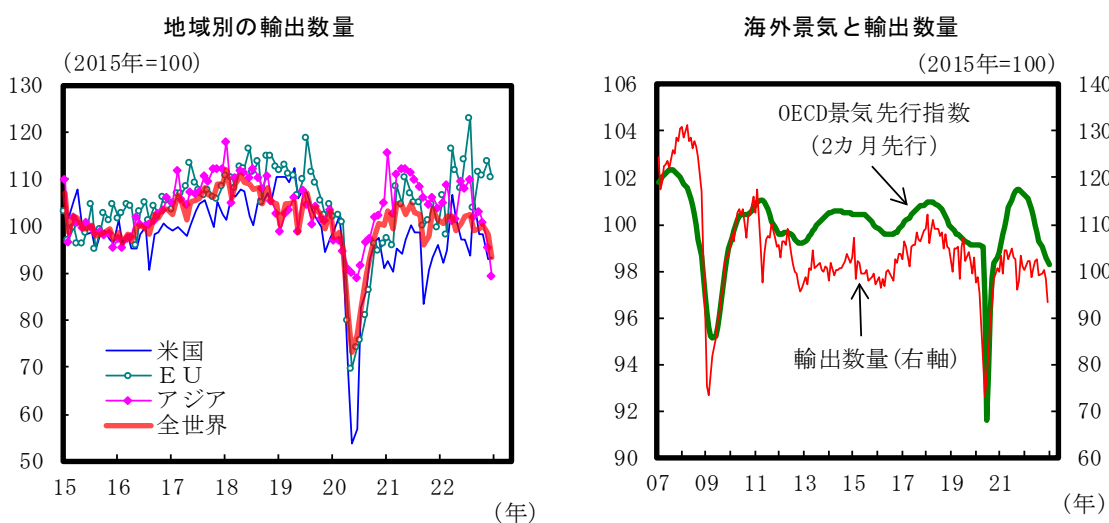
12月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲5.0%と2カ月連続で減少した。前月に大きく回復したEU向け自動車輸出で反動減が表れたほか、アジア向けの半導体等製造装置や集積回路（IC）といった半導体関連財の輸出が減少した。地域別に見ると、米国向け（同+0.7%）が増加した一方、EU向け（同▲3.2%）やアジア向け（同▲6.3%）は減少した。

米国向けは2カ月ぶりに増加した。自動車や同部分品、原動機などの自動車関連財が寄与しており、利上げが進む中でも自動車需要が旺盛であることが示唆される。他方、鉄鋼の輸出の減少が全体を下押しした。利上げで米国の住宅セクターの業況が悪化し、建材需要が減少していることや、前月の輸出増の反動などが背景にあるとみられる。その他の品目では電算機類の部分品が増加したが、テレワーク需要の一巡などを背景に低水準での推移が続いている。

EU向けは2カ月ぶりに減少した。自動車が全体を押し下げたほか、自動車の部分品、原動機、鉄鋼、医薬品なども減少した。ただし鉄鋼の輸出数量は高水準にあり、欧州における原材料需要の強さを反映しているとみられる。また、対欧輸出の柱である半導体等製造装置はわずかながら2カ月連続で増加しており、2022年央から続いていた減少基調が一服した。

アジア向けは3カ月連続で減少した。中国向け（前月比▲10.8%）の自動車や半導体等製造装置の減少が全体を大きく押し下げた。中国国内での新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少や、PC向けなどの一部の半導体需要の低迷が背景にあるとみられる。また、ASEANなどへの集積回路（IC）の輸出も大幅に減少した。足元ではシリコンサイクル（3～4年周期で循環する半導体の在庫循環）が在庫調整局面に差し掛かっており、半導体関連財の需要の弱さが輸出減に表れているとみられる。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



（注1）OECD景気先行指数（CLI）はOECD加盟国を集計したベース。

（注2）輸出数量の季節調整は大和総研。

（出所）財務省、OECD統計より大和総研作成

【見通し】中国の「ウィズコロナ」転換が先行きの輸出数量を押し上げ

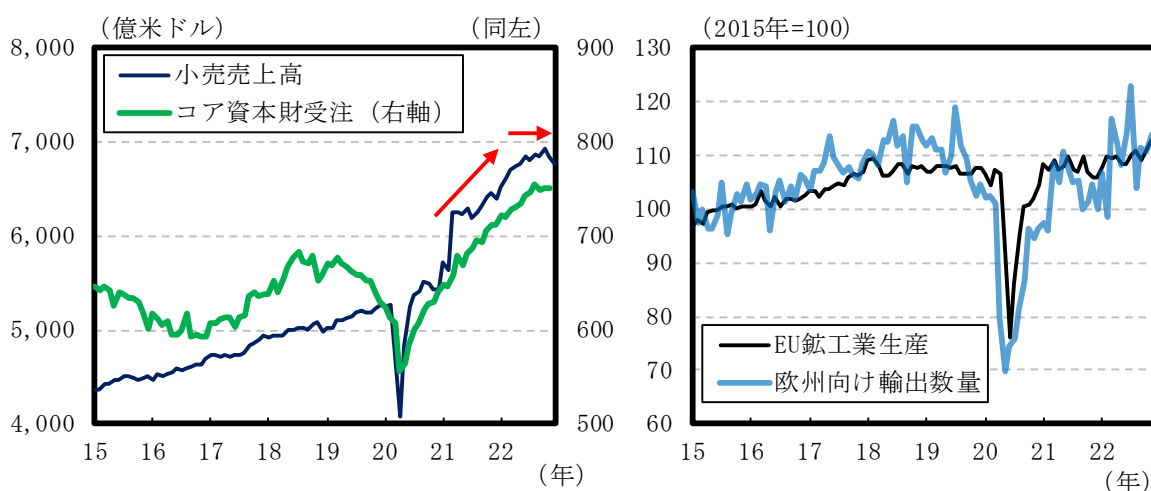
先行きの輸出数量は横ばい圏で推移した後、中国経済の正常化などを背景に増加基調に転じるとみている。供給制約の緩和や中国の「ウィズコロナ」政策への転換が押し上げ要因となるだろう。ただし、米欧における利上げの影響には引き続き注意が必要だ。

輸出の先行きを地域別に見ると、米国向けは緩やかな減少基調を辿るとみている。米国経済の屋台骨である個人消費は、利上げ局面においても底堅く推移してきた。ところが12月の小売売上高は前月比▲1.1%と前月から減少幅が拡大しており、均して見れば年後半にかけて横ばい基調となった(図表5左)。機械投資の先行指標であるコア資本財受注も頭打ち感が強まっており、利上げなどの影響が顕著に表れている。米国の政策金利は4.25-4.50%と高水準にあるが、FRBは12月の会合において、当面は引き締めスタンスを維持する姿勢を強調した。総じてみれば先行きの対米輸出は押し上げ要因に乏しく、軟調に推移しよう。

欧州向けは徐々に下げ止まるとみている。欧州向けは2022年央にかけて半導体等製造装置の急増により押し上げられ、年後半はその剥落が進んで減少基調に転じたが、こうした動きは足元で一巡したとみられる。先行きは、ECBによる利上げの影響や欧州のファンダメンタルズに左右されるだろう。この点、日本から欧州向けの輸出では一般機械などの資本財の割合が高く、欧州域内の生産動向と連動しやすい(図表5右)。欧州の鉱工業生産指数はこのところ上昇基調に転じていることから、タイトな金融環境の下でも対欧輸出を下支えするとみている。

中国向けは経済正常化の進展で回復が加速する見込みだ。中国では感染状況の悪化と「ゼロコロナ」政策の堅持によって生産や消費が失速し、日本からの対中輸出が抑制されてきた。他方、中国政府は12月に実質的な「ウィズコロナ」政策に転換した。感染状況次第ではあるものの、日本の対中輸出の下振れリスクは縮小したといえよう。今後は資本財、中間財、最終消費財のいずれも輸出増が見込まれる。なお、1月から2月にかけては春節の影響やその反動で対中輸出のデータが上下に振れる傾向があるため、均して見る必要がある。

図表5：米國小売売上高とコア資本財受注(左)、EU 鉱工業生産指数と欧州向け輸出数量指数(右)

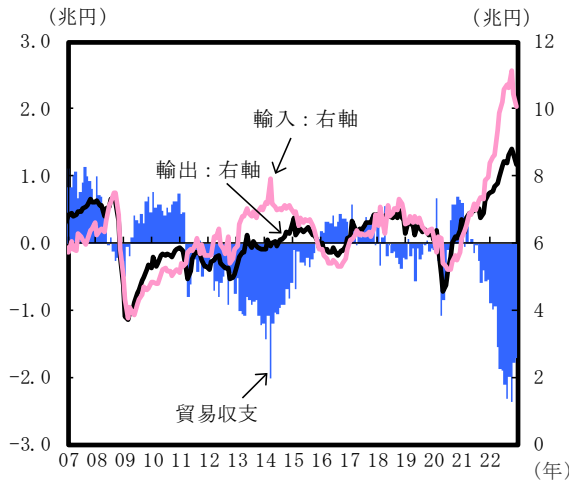


(注) 季節調整値。コア資本財は航空機を除く非国防資本財。EU 鉱工業生産は建設を除く。

(出所) 内閣府、US Census、欧州委員会、Haver Analyticsより大和総研作成

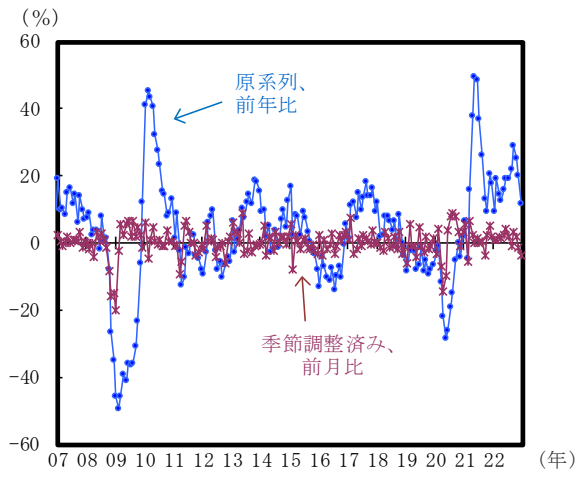
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

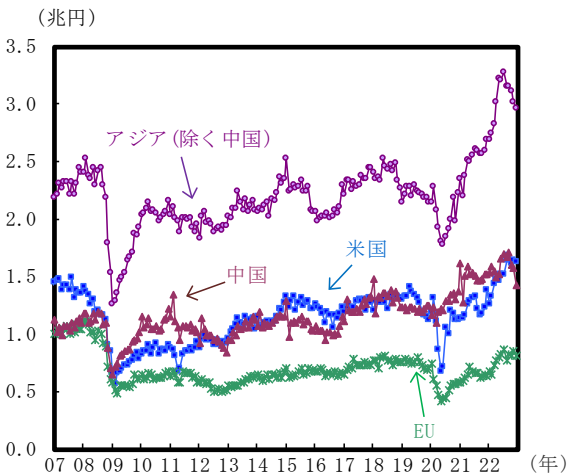


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

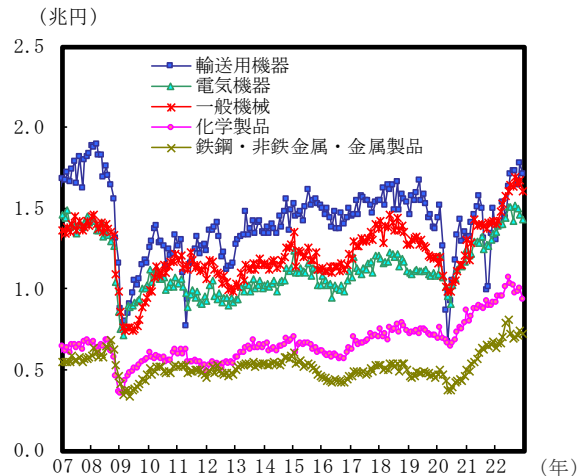


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

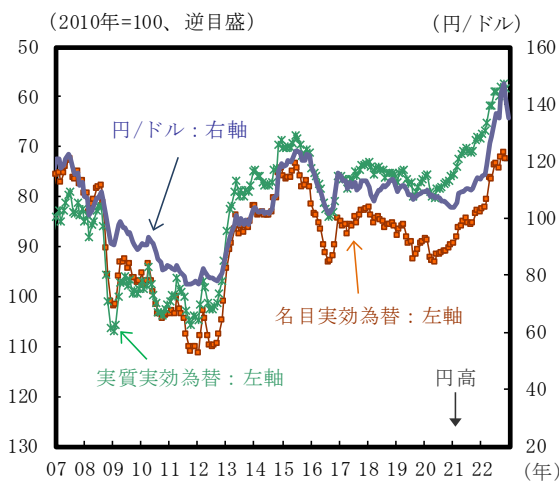


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

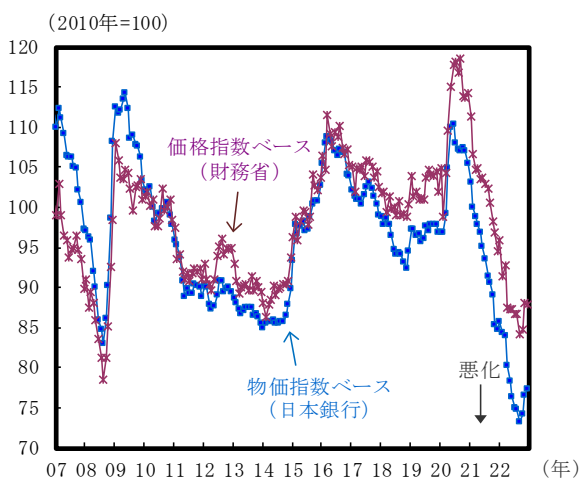


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2022/07	2022/08	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	19.0	22.0	28.9	25.3	20.0	11.5	100.0	11.5
食料品	21.6	15.2	14.9	16.6	16.1	7.3	1.3	0.1
原料品	17.8	7.7	14.3	15.3	13.6	▲0.8	1.4	▲0.0
鉱物性燃料	142.3	171.0	86.7	76.1	19.9	67.6	1.9	0.9
化学製品	15.9	16.3	4.9	10.0	10.7	1.3	11.1	0.2
原料別製品	16.3	12.3	10.0	12.4	13.5	8.3	11.6	1.0
鉄鋼	13.0	11.2	4.5	7.3	11.0	3.7	4.5	0.2
非鉄金属	23.2	12.4	12.1	18.1	17.6	15.9	2.4	0.4
金属製品	4.6	4.3	10.1	9.5	11.7	3.2	1.4	0.0
一般機械	17.3	17.0	23.8	17.6	18.9	13.2	20.2	2.6
電気機器	13.8	13.0	19.6	17.9	11.4	6.1	17.7	1.1
半導体等電子部品	20.8	8.9	20.4	20.1	11.4	0.4	5.6	0.0
I C	24.8	8.9	27.8	24.1	12.0	2.0	3.9	0.1
映像機器	134.5	122.5	121.0	108.8	93.6			
映像記録・再生機器	58.3	39.2	40.8	31.6	20.3	23.2	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲35.4	▲8.3	7.9	▲15.4	▲14.2	2.6	0.2	0.0
電気回路等の機器	14.2	13.2	15.6	16.0	15.9	7.4	2.4	0.2
輸送用機器	14.6	30.8	75.0	61.4	33.9	14.5	20.2	2.8
自動車	13.7	39.3	122.3	81.0	38.3	17.9	14.8	2.5
自動車の部分品	0.8	13.3	12.4	24.5	5.1	3.3	3.8	0.1
その他	30.8	31.5	34.8	29.7	27.1	20.6	14.6	2.8
科学光学機器	22.0	15.0	12.1	18.5	7.3	0.6	2.6	0.0

米国向け輸出金額 内訳								
	2022/07	2022/08	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	14.1	33.8	45.3	36.6	32.6	16.9	100.0	16.9
食料品	15.5	1.6	▲1.3	▲11.0	▲7.6	▲9.0	0.8	▲0.1
原料品	0.4	17.5	15.6	22.0	14.7	▲13.6	0.5	▲0.1
鉱物性燃料	104.9	115.1	37.2	419.7	▲86.9	▲58.5	0.0	▲0.0
化学製品	18.5	61.0	30.2	20.7	56.3	13.4	6.4	0.9
原料別製品	21.5	40.0	37.6	19.3	30.1	26.7	7.7	1.9
鉄鋼	19.3	118.8	62.5	17.7	80.0	34.5	1.8	0.5
非鉄金属	53.0	85.6	50.3	50.9	37.1	73.1	1.3	0.6
金属製品	4.2	7.9	14.4	8.2	16.4	5.1	1.3	0.1
一般機械	23.9	28.2	30.6	30.6	39.6	23.9	26.1	5.9
電気機器	▲0.3	18.2	27.7	19.6	14.2	12.4	13.9	1.8
半導体等電子部品	8.2	9.6	31.0	9.0	6.3	7.8	1.3	0.1
I C	17.1	14.7	68.5	20.9	9.9	4.2	0.6	0.0
映像機器	36.3	28.8	56.6	29.8	21.3			
映像記録・再生機器	33.8	14.2	58.5	38.0	11.9	7.2	0.6	0.0
音響・映像機器の部分品	▲84.7	▲60.5	▲30.0	▲49.3	▲52.8	▲12.3	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	9.5	19.0	23.3	19.1	13.2	12.8	1.4	0.2
輸送用機器	6.8	38.5	92.3	68.5	34.6	15.5	34.1	5.3
自動車	8.4	34.6	119.2	78.6	41.1	16.2	27.4	4.4
自動車の部分品	▲2.7	44.4	27.2	31.1	2.6	2.2	5.0	0.1
その他	24.1	29.6	25.7	26.2	29.0	12.0	10.5	1.3
科学光学機器	32.3	32.2	27.1	38.9	39.3	24.5	2.7	0.6

EU向け輸出金額 内訳								
	2022/07	2022/08	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	31.7	16.7	33.2	28.1	32.0	27.0	100.0	27.0
食料品	1.7	▲19.1	18.7	▲4.8	▲14.4	▲5.0	0.5	▲0.0
原料品	50.7	27.9	7.5	32.5	▲1.0	33.1	0.9	0.3
鉱物性燃料	192.8	▲61.9	248.5	101.1	▲38.7	728.0	1.8	2.0
化学製品	32.5	32.5	11.5	11.6	7.3	16.7	10.6	1.9
原料別製品	25.0	▲15.4	36.7	25.9	61.5	56.5	8.8	4.0
鉄鋼	2.9	▲61.3	172.5	30.9	208.9	134.2	2.9	2.1
非鉄金属	67.3	31.4	▲5.7	40.7	45.2	79.4	1.1	0.6
金属製品	12.5	1.3	15.2	17.0	15.6	20.5	1.3	0.3
一般機械	27.2	14.0	23.6	17.6	30.5	33.1	24.9	7.9
電気機器	20.4	5.7	14.0	19.8	21.1	24.5	16.8	4.2
半導体等電子部品	18.7	11.7	12.0	27.9	21.2	14.0	2.2	0.3
I C	30.4	10.4	11.9	21.5	11.0	13.1	0.9	0.1
映像機器	143.0	101.4	67.6	59.1	64.0			
映像記録・再生機器	114.1	102.6	43.9	23.4	42.0	49.8	0.8	0.3
音響・映像機器の部分品	12.9	▲4.5	▲23.3	▲14.3	▲48.9	44.2	0.2	0.1
電気回路等の機器	22.6	11.5	17.9	16.8	35.9	31.9	1.7	0.5
輸送用機器	44.4	37.8	97.8	77.5	66.0	21.8	22.2	5.1
自動車	77.0	76.2	194.0	101.7	69.9	16.1	13.9	2.5
自動車の部分品	▲2.8	▲9.4	▲6.6	13.0	8.5	0.9	3.3	0.0
その他	36.5	18.6	25.0	14.9	10.6	11.3	13.5	1.7
科学光学機器	54.3	20.2	25.3	33.0	26.5	29.3	4.0	1.2

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2022/07	2022/08	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	21.1	18.1	20.6	16.6	11.6	4.1	100.0	4.1
食料品	23.9	19.6	17.5	23.3	22.7	11.6	1.8	0.2
原料品	15.0	8.2	14.8	13.2	14.0	▲2.0	2.1	▲0.0
鉱物性燃料	191.2	296.2	98.5	30.3	▲9.8	53.8	2.0	0.7
化学製品	13.5	6.9	1.6	5.1	5.7	▲1.5	15.0	▲0.2
原料別製品	14.9	10.0	5.7	9.5	7.0	1.2	14.0	0.2
鉄鋼	13.4	10.5	▲2.9	5.5	1.0	▲4.0	5.5	▲0.2
非鉄金属	19.6	7.9	11.5	13.1	10.5	7.9	3.6	0.3
金属製品	6.3	4.8	8.0	7.4	7.6	▲3.6	1.5	▲0.1
一般機械	14.7	12.4	19.6	10.6	9.1	3.9	18.8	0.7
電気機器	16.6	12.9	19.1	16.6	9.0	1.2	22.2	0.3
半導体等電子部品	21.1	8.3	20.4	19.8	10.9	▲0.6	9.3	▲0.1
I C	24.7	8.4	26.9	24.2	12.1	1.5	6.9	0.1
映像機器	302.0	285.6	236.7	228.9	197.3			
映像記録・再生機器	60.5	47.6	24.7	24.5	13.6	18.7	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	▲11.1	2.5	14.1	▲15.8	0.6	▲5.8	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	13.8	12.4	15.8	14.2	13.8	3.4	3.3	0.1
輸送用機器	30.3	27.4	72.0	48.1	22.0	▲11.9	6.5	▲0.9
自動車	21.0	43.7	164.0	71.6	24.7	▲22.2	3.1	▲0.9
自動車の部分品	10.3	9.9	13.1	28.9	5.2	▲2.5	2.8	▲0.1
その他	32.1	33.0	33.5	29.4	25.0	21.3	17.7	3.2
科学光学機器	12.1	7.5	4.0	8.8	▲5.8	▲11.9	2.8	▲0.4

中国向け輸出金額 内訳								
	2022/07	2022/08	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	12.8	13.4	17.1	7.7	3.5	▲6.2	100.0	▲6.2
食料品	41.8	38.9	35.4	26.4	43.5	21.8	1.2	0.2
原料品	45.7	35.0	15.5	14.1	40.4	17.7	2.7	0.4
鉱物性燃料	294.0	250.6	65.8	135.3	10.4	103.7	1.0	0.5
化学製品	11.0	4.7	0.1	4.1	7.6	0.5	18.4	0.1
原料別製品	7.9	8.2	3.1	▲0.3	▲2.6	▲6.3	11.9	▲0.7
鉄鋼	▲0.1	8.3	▲7.9	2.4	▲11.7	▲11.7	3.3	▲0.4
非鉄金属	14.7	13.1	8.0	▲10.9	▲8.7	▲5.7	3.7	▲0.2
金属製品	▲1.6	▲3.4	▲0.2	2.7	0.9	▲14.0	1.6	▲0.2
一般機械	8.7	8.7	14.8	▲3.0	▲3.2	▲7.6	21.7	▲1.7
電気機器	15.6	7.9	16.5	9.6	2.7	▲2.4	23.2	▲0.5
半導体等電子部品	21.2	▲13.8	20.1	8.5	2.2	3.9	8.2	0.3
I C	28.6	▲20.6	26.8	13.3	2.2	10.9	6.1	0.6
映像機器	418.0	353.1	279.0	294.0	204.3			
映像記録・再生機器	48.8	36.6	▲1.7	▲7.0	▲11.0	8.5	0.4	0.0
音響・映像機器の部分品	▲31.8	▲33.7	▲16.2	▲40.4	▲6.3	▲19.1	0.3	▲0.1
電気回路等の機器	14.5	13.5	21.1	14.0	10.2	▲5.5	3.7	▲0.2
輸送用機器	5.5	19.6	92.3	34.3	▲0.9	▲45.7	6.0	▲4.8
自動車	18.2	55.2	336.8	71.8	11.3	▲50.2	3.5	▲3.3
自動車の部分品	▲13.0	▲18.8	▲9.7	3.0	▲18.8	▲38.1	2.4	▲1.4
その他	10.6	29.5	20.9	14.6	10.9	3.0	13.8	0.4
科学光学機器	▲16.5	▲4.7	▲7.8	▲0.2	▲10.6	▲16.8	3.4	▲0.7

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成